

STEP1：意思決定する力の評価

事例の概要

- ・ 楠木さん。84 才 男性。80 歳の妻と二人暮らし。小児時に肺結核に罹患しており、低肺機能の状態にある。50 代のころ、胆石症で胆嚢摘出術の既往がある。60 代から両膝の変形性膝関節症で内服治療を行い、定期的に膝の水を抜いてもらっていた。
- ・ 78 才の時に脳梗塞を発症しその後日常生活動作が低下。現在要介護 2 の生活状況である。また、軽度の心不全に罹患している。
- ・ かかりつけ医は家から 10 分程度の診療所で、脳梗塞を発症した後からは定期的に受診をしている。また、週 1 回のホームヘルプサービスを受けていた。
- ・ 車で 15 分程度の場所に長男家族が住んでおり、月に一度ほど訪問している。
- ・ 生活に支障はないものの認知機能が低下しており、長谷川式簡易知能評価スケールで 17 点。かかりつけ医からはアルツハイマー病による軽度認知障害と言われていた。
- ・ 妻との二人暮らしの生活においては、しばしば言葉のつじつまが合わないようなことはあったが、特に大きな支障はなかった。
- ・ 自宅には庭があるため、調子がいいと庭に出て過ごすことが多かった。昔から、植木や盆栽の手入れが好きで、今でも時々盆栽の手入れをしている。
- ・ 3 か月前から右膝の痛みと、臀部の痛みが強くなってきて徐々に増悪。以前から杖をついてゆっくり歩行する状態だったが、トイレに行くことも難しくなっている。かかりつけ医を受診したところ、変形性膝関節症の増悪と診断され、アルツの注射と内服で経過を見ていたが、改善しないばかりか徐々に増悪。一向に痛みは治まらず、その後一日のうちの半分程度をベッド上で生活するようになった。
- ・ 患者自身の「せめてこの痛みをもう少し減らしたい、ひとりで苦労することなくトイレに行けるようになりたい」という求めもあり、膝痛に対して総合病院への紹介受診が行われた。
- ・ 総合病院の整形外科は、一通りの精密検査を行った後、患者本人、妻、長男に対して、以下のような説明を行った。
 - 右膝が痛いのは、膝の変形性関節症が原因と考えられる。
 - 治療については、2 つの治療が選択肢として考えられる。一つは手術をせず痛み止めの内服薬による治療、二つ目は、全人工膝関節置換術（手術）である。

- 手術を行うことで、移動のときの膝の痛みが良くなる可能性が80%程度ある。しかしながら、もともとの機能が充分でないところに、この3か月で廃用が進んでいることから、ADLが回復するかどうかはなんとも言えない。リハビリ次第というところはあるだろう。一方で、必ず痛みが楽になるかという、そうとも言えず、約2割の方で痛みが残る。ただ、痛みが楽になれば、ご本人の頑張り次第で日常生活動作は高まるかもしれない。
 - 手術には全身麻酔が必要で、全身麻酔による合併症の可能性はありうる。特に、肺と心臓が弱いために、全身麻酔で手術を受けること自体で体の機能が弱くなってしまうことはあるかもしれない。
 - また、深部静脈血栓症が起こりやすい手術であり、もともとの低肺機能と心不全があることから、もし肺塞栓症が起こった場合は命にかかわることがある。
 - 手術を行わずに薬で治療するのが無難な気がしており、薬を変更するのもひとつだが、痛み止めも眠気を誘発するなどの副作用があるので、今より強い薬を使うことは難しいかもしれない。
 - 今すぐに治療方法を決めるのは難しいと思うので、良い方法を一緒に考えていきましょう。
- ・ 医師からの説明後、看護師が確認のために楠木（以下 K）さんと話をした。
- 看護師（以下 N）：「楠木さん、あまり食欲無いですね。痛みはお薬を飲んでもつらいですか？」
- K：「痛いねえ。動けないんで、もしこのまま動けないんだったらって思うと、つらいねえ。」
- N：「動けないのも、おつらいですね」
- K：「そりゃあね。お手洗い一つ行けないんですよ。情けなくって。せめて楽にお手洗いに行けるようになりたいよ。」
- N：「医師からどんな説明を受けましたか？」
- K：「手術するか薬で様子見るかだって。手術だと痛みが取れるかもしれないって。でも、すたすた歩くのは無理らしい」
- N：「医師から、手術のお話聞かれたんですね。他にはなんて言っていました？」
- K：「先生は、手術しろって言ってた。」
- N：「手術を受けるとしたら、何か心配なことってありますか？」
- K：「でもなんか、血の塊ができやすくなって、息が苦しくなって最悪死んじゃうかもしれないって、そんなこと言われたら怖くなっちゃって・・・。」

N:「手術を受けることは、怖くはないですか？」

K:「手術自体は怖くはないよ。若いころ胆嚢とったことあるもん。寝て起きたら終わってた。でも今回は、ねえ、血の塊がね・・・苦しいんでしょ。」

N:「薬でももう少し様子を見ることについてはどのようにお考えですか？」

K:「できれば薬は飲みたくないし、今まで飲んだ薬はあんまり効かない。何か、もう少し強い薬があるらしいけど・・・。」

N:「ご家族のご意見は、いかがですか？」

K:「息子もねえ、お父さんがいいと思うほうに決めれば、どっちでも大丈夫だからとは言ってくれてるんだけど、良くなならないうえに、このまま死んでしまうんじゃないかと思ったら、不安でねえ。がんとかなら腹くくれるけど、そういうんじゃないから。どうするのがいいのやら・・・。」